

トクヤマ ヒカリライナーによる、 パーシャルデンチャーのリライニング

茨城県笠間市 つなかわ歯科医院 綱川 周平 先生

皆さんはパーシャルデンチャーのリライン時に鉤歯のアンダーカット部分にレジンが入って硬化し、外れなくなりそうになってひやひやした経験はないでしょうか？

ヒカリライナーはそのようなアンダーカットがあっても安心して使用することができる硬質裏装材です。義歯に盛り付け、口腔内に装着後、3分以上でゴム状（アンダーカットから外すことができず、良好な適合が得られる状態）になります。その状態で口腔内から外し、光重合器で最終硬化させます。従来品のトクソー ライトリベース（トクヤマデンタル）と比べ、流動性が高くなり、硬化後の物性も向上したので非常に扱いやすい硬質裏装材になっていると感じます。

ヒカリライナーの有効な使用方法を実際の症例でご紹介いたします。



CASE 1 下顎遊離端義歯に対する床裏装①

下顎遊離端義歯では、遊離端部分の顎堤吸収に伴い義歯が不適合となっていき、咬合圧下で適合試験をしてみるとそれを見逃してしまうことがある。義歯が定位置から沈下しないようにレストを押さえて、診査、床裏装を行うことで粘膜面の適合を適切に回復することができる。



図1 主訴は「左下にものが入る」。咬合圧での適合試験（フィットテスト）の状態。

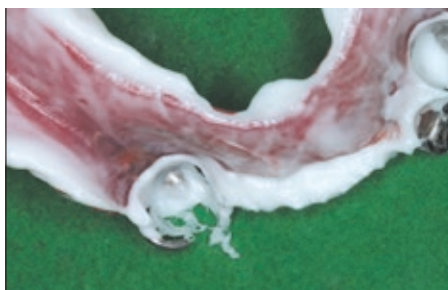


図2 一見粘膜面の適合は良いように見えるが、レストが遠心にずれ、遊離端部分が沈下していることが分かる。

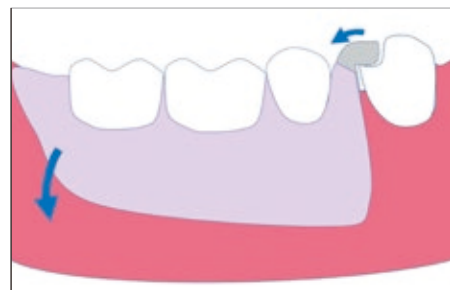


図3 遊離端義歯では顎堤吸収に伴う義歯の沈下によってレストが遠心にずれてしまうので、レストがずれないように裏装する必要がある。



図4 レストを手圧で押さえての適合試験（フィットテスト）の状態。左側臼歯部粘膜面の不適合が確認できる。この状態で裏装する必要がある。

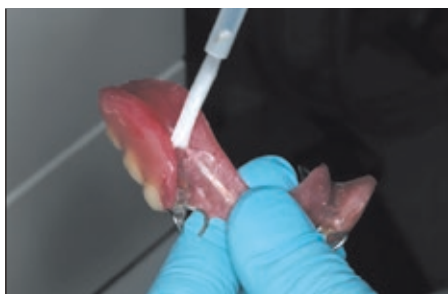


図5 新鮮面を出すために粘膜面を一層削合し、接着材を塗布する。



図6 標準の粉液比で30秒混和後、義歯内面に盛り付ける。

CASE 1 下顎遊離端義歯に対する床裏装①



図7 口腔内に挿入し、レスト部を押さえて3分以上圧接する。



図8 この段階では弾性があるため、アンダーカットがあっても義歯を外すことができる。



図9 40℃～60℃のお湯をデイスボ容器に入れ、裏装面を上に向けて義歯を漬ける。



図10 ポータライトで5分間光重合を行う。省スペースなので院内での配置には困らない。



図11 形態修正、研磨を行った後、フィットテスターにて適合状態を確認する。適合が改善されていることが分かる。

CASE 2 下顎遊離端義歯に対する床裏装②

Case1図3に示した機序により遊離端義歯ではクラスプのズレ、緩み、レストの破損、鉤歯の動揺、移動などが起こる。この症例は顎堤吸収の影響がレストの破損として現れた症例である。このような顎堤吸収に対し、適宜床裏装を行うことが遊離端義歯の長期安定には必要である。



図1 主訴は左下3のレスト部分の破損。遊離端部の顎堤吸収や対合歯の挺出が起こるとレストの破損やクラスプの緩みとして現れることが多い。



図2 まず右側のレストを定位置に押さえた状態で、左側のレスト部分をキュアグレースで固定する。



図3 レストの固定、咬合調整を行った後、フィットテスターで粘膜面の適合を確認。この粘膜面の不適合がレストの破損の原因と考えた（左下4は昨年抜歯している）。



図4 CASE1と同様にヒカリライナーで裏装を行う。



図5 形態修正、研磨を行った後、フィットテスターにて適合状態を確認する。適合が改善されていることが分かる。